



ラジオドラマにおいて、視覚情報がないことを弱点とするのではなく、聴覚情報のみの特性を活かす工夫が求められることが明らかになった。誤解や混乱を防ぐ情報伝達、聴取者の集中負担を軽減する演出、静寂を取り入れた物語の締めくくりなど重要な要素があることが分かった。また、ラジオドラマは言葉に重きを置いており、文学性を重視し、読者の想像力を引き出す点でレーゼドラマと通じる部分があるのである。本論をもとに制作した「聞こえる脚本」は、聴覚情報を視覚的に読むことで、個人のペースでシーンを味わいながら楽しむ新たな表現の形を提案している。